

令和7年度 理科授業改善推進プラン

大田区立仲六郷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ICT 機器を活用して、資料提示したり、ビデオ映像を見せたりしたことで関心・意欲が高まった。
- ねらいに沿った実験や観察の機会を増やしたことで、問題解決することの楽しさを味わうことができ、興味・関心を高めることができた。(3年)
- 考察の際には、予想や問題に立ち返りながらまとめることができるようになってきた。(4年)
- 実験の目的を押さえることで、見通しをもって進めることができた。(4年)
- 振り返りの際には問題に立ち返りながらまとめることができるようになってきた。(5年)
- 実験単位では、考察から新たな実験を発想させたことで、問いと解決方法を協働的に考えるなど、対話的で深い学びにつながった。実験を様々な方法で行うことができた。(6年)

(2) 課題

- 理由を明確にして予想をしたり、結果からの確かな考察を導いたりすることができない児童が数名いる。(3年)
- 実験の目的を理解しておらず、問題とずれた考察をする児童が数名いた。(4年)
- 画像やグラフ、表の見方や考え方などの力が不十分である。(4年)
- 観察、実験は主体的・協働的に行うことができ、まとめも的確にできる。しかし、専門的な言葉などなかなか知識としての定着に繋がらず、テストの結果がよくない。(5、6年)



2 大田区学習効果測定の結果について

(1) 達成率 (同一集団の経年変化)

	令和7年度	令和6年度	令和5年度
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> ほぼすべての項目で目標値を下回っている。 特に、「磁石の性質」、「昆虫」、「植物の育ち方」、「電気の通り道」に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標値を大きく下回る「植物の育ち方」「じしゃくのせいしつ」に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 「電気の通り道」が3項目とも目標値に達しておらず、課題がある。
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> 目標値を下回る。「天気のようにすと気温」「物の体積と力」「物の体積と温度」「雨水のゆくえと地面のようす」「物のあたたまり方」に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標値を大きく下回る「天気のようにすと気温」「物のあたたまり方」に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標値をやや下回る。「月と星」「動物の体のつくりと運動」「物の体積と温度」に課題がある。
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> 全ての項目で目標値を下回る結果となっている。「植物の発芽」「物のとけ方」に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標値を大きく下回る「天気の変化」「電流のはたらき」に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 全ての項目で目標値を下回る結果となっている。「植物の発芽」「ふりこのきまり」に課題がある。

(2) 令和7年度の結果分析 (観点別)

・4学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 「身近の自然の観察」で観察の仕方や道具の使い方を理解していない児童が多い。 「植物の育ち方」でハウセンカの育つ順序や実と種の関係についての理解が低い。 「磁石の性質」で、実験から2つの磁石の極を分析することができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験の結果と、理由を結び付ける力が弱く、大まかな推測を立てることができない。 実験や観察の結果から気付いたことを事細かに書き出し、そこから考える力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験に進んで取り組む児童は多いが、結果に基づいて考える力が低い。 記述式の問題の正答率が低い。授業において言葉だけでなく、図や動画で事象の理由を説明する機会を多く設ける必要がある。

・ 5 学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・「気温のはかり方」「物の体積と力」についての理解が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「もののあたままり方」において、考えを書く問題や、実験結果を考える問題について苦手さが見られる。 ・「水のすがた」において、グラフを読み取る問題や、実験の結果を分析する問題に苦手さが見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元によって、正答率に大きくばらつきがある。また、全体を通して未回答が多く見られる。

・ 6 学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・「もののとけ方」において、水溶液の性質の理解が低い。 ・物質、エネルギーの分野の定着が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・比較実験の結果を推測したり、要因を考察したりする力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に目標値を大きく下回っている。実験・観察等を通して、基礎を確実に定着させる必要がある。また、言葉で結果や方法を説明させる機会をたくさんつくる必要がある。

3 授業改善のポイント

・ 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>3 年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習した内容が知識として定着するよう単元のまとめに、小テストを実施する。 ・実験器具を正しく扱うことができるよう、扱い方を繰り返し指導する。 	<p>3 年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えや理由をノートに書く活動を普段から取り入れる。 ・振り返りは、予想に対してどうだったか、観点を明確にして書くよう指導する。 	<p>3 年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決を通して、習得した知識を使って日常生活との関わりの中で捉えなおす場面を設定することで、関心を高めていく。 
<p>4 年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験の仕方や注意点を視覚的に掲示したり、その都度確認したりして定着させる。また、一人一人が実験内容を学習できるように、分担させたり協同作業をさせたりする。 	<p>4 年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活経験と結び付けながら、根拠を明確にした予想を立てさせる。 ・実験の目的を視覚的に捉えやすいよう工夫して書き、実験から分かったことを書く習慣を付ける。また、考察を書く際には、文型を示しながら、まとめる力を伸ばす。 	<p>4 年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容に興味をもつことができるよう、授業の導入を工夫する。また、映像やタブレットなどを効果的に活用し、視覚的に課題を理解しやすくする。

・高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>5年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験の際は、一人一人の役割を明確にし、実験する機会を多く設け、器具の使い方や用途について確実に理解させる。 ・学習の振り返りを丁寧に行い、自然事象や実験結果などの理解の定着を図る。 <p>6年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おさえるべき理科学用語は確実に板書し、ノートに書かせることで用語を定着させる。 ・実験器具は使い方や、使う理由、効果など丁寧に指導する。場合において、実験のやり方を教師実験やデジタル教科書の動画を視聴し、安全に行えるようにする。 ・単元後には、学習を振り返られるよう復習を行い、既習事項が理解できているか確認する。 	<p>5年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験結果から、自分なりの考察を書く活動を毎回取り入れる。また、友達の考えや意見に触れる時間を設け、思考・表現が深まるようにする。 ・タブレットを活用して、他のグループの結果と比較して考察し、クラスとしてのまとめにつなげていく。 <p>6年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表やグラフは、ワークシートを工夫して自分でもまとめていくよう意図的に単元計画を仕組む。 ・自分の考えと他者の考えを比較、検討させ、思考を深める。 	<p>5年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考察では、新たな疑問や確かめてみたいことを加えて書かせ、次の実験に生かせるようにする。 ・授業の導入を工夫し、自然事象に対する問題意識を高める。 <p>6年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験単元では、考察から新たな実験を発想させ、できる限り実現できるようにして、実験（方法、結果、考察）が自分事になるようにする。 ・単元の導入では学習課題から、児童とともに仮説を設け、すすめていく。